

ライフドアすわ「9月認知症月間」の取組み実施報告

1 目的

9月21日の認知症の日を中心とした9月認知症月間に合わせ、認知症の理解を広めるとともに安心して暮らせる地域づくりについて考える機会をつくる。

2 期間

令和8年8月31日(月)～10月8日(木)

3 実施内容

(1) 認知症啓発パネル・市民の皆さんからのメッセージを展示

認知症に関する啓発パネル6枚を展示するとともに、「安心して認知症になれる地域って、どんな地域？」をテーマに、市民の皆さんからメッセージを募集し、展示した。

認知症高齢者家族の会「こむぎの会」、認知症カフェ「えがお」の参加者の皆さんにもメッセージを記入していただき、当事者や家族の思いを含めた展示とした。また、諏訪赤十字病院では、認知症疾患医療センターとの共同展示を初めて実施した。啓発パネルに加え、認知症疾患医療センターや他市町村が作成したリーフレット等も展示し、認知症に関する幅広い情報を発信した。

【展示期間・場所】

- ・8月31日(月)～9月11日(金)
諏訪赤十字病院 1階ロビー
- ・9月14日(月)～9月25日(金)
総合福祉センター「いきいき元気館」1階ロビー
- ・9月25日(金)～10月8日(木)
市役所 1階ロビー

日赤 1階ロビー



元気館



市役所 1階ロビー



(2) 認知症啓発グッズの作成・配布

8月4日に、諏訪市社会福祉協議会とのコラボ企画「認知症啓発グッズを作ろう」を開催した。認知症サポーター、学生ボランティア、認知症カフェ「えがお」の参加者、地域住民、専門職等、30名が参加した。参加者は事前に認知症サポーター養成講座で認知症について学んだ上で、啓発グッズを作成した。

作成した認知症啓発グッズは、市内の医療機関や薬局、認知症サポーター養成講座を受講した企業等、約140 か所へ配布した。



(3) 広報すわ9月号を活用した啓発

地域包括支援センターと協働し、「広報すわ 9 月号」に認知症に関する記事を掲載した。

認知症を特別なことではなく、市民一人ひとりに関わる身近なこととして考えていただくきっかけとなるよう、情報発信を行った。

4 取り組みの成果

今回の取り組みでは、認知症について知識を得るだけでなく、「安心して認知症になれる地域」について、市民の皆さんとともに考える機会をつくることができた。メッセージ展示には 52 件のメッセージが寄せられ、「気軽に声をかけてもらえる地域」「認知症について理解してくれる人がいる」「認知症だと笑って話せる」など、市民の皆さんが考える地域の姿や思いを共有することができた。また、啓発グッズの作成では、認知症のある人やその家族、地域住民、学生、専門職等と一緒に活動することで、立場や世代を超えた自然な交流が生まれた。作成したグッズは、医療機関や薬局、企業等、地域の身近な場所へ配布することで、認知症について考えるきっかけを広げることができた。また、諏訪赤十字病院では、認知症疾患医療センターとの初めての共同展示を実施し、医療機関との連携による啓発の機会を広げることができた。

取り組みを通じて、認知症への理解を広げるとともに、市民や関係機関がそれぞれの立場から認知症について考え、つなげる機会をつくることができた。

5 その他

認知症月間の取り組みとは別に、社会福祉協議会・宮下会長の提案により、デイサービスセンター「西山の里」において、初めて介護事業所での認知症パネルの展示を実施することとなった。(10 月～11 月) 認知症パネルの展示を通じ、新たな場所での認知症への理解を広げる機会となった。

6 今後に向けて

今後も、認知症のある人や家族の声を大切にしながら、地域のさまざまな立場の人が認知症について考え、自然に交流できる機会をつくり、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを進めていく。